

東日本大震災から一年

生きる

# 写真展

あの日を身体で、こころで感じた私たちは語り継いでいかななくてはならない。それが「生きる」ことの証しでもある。

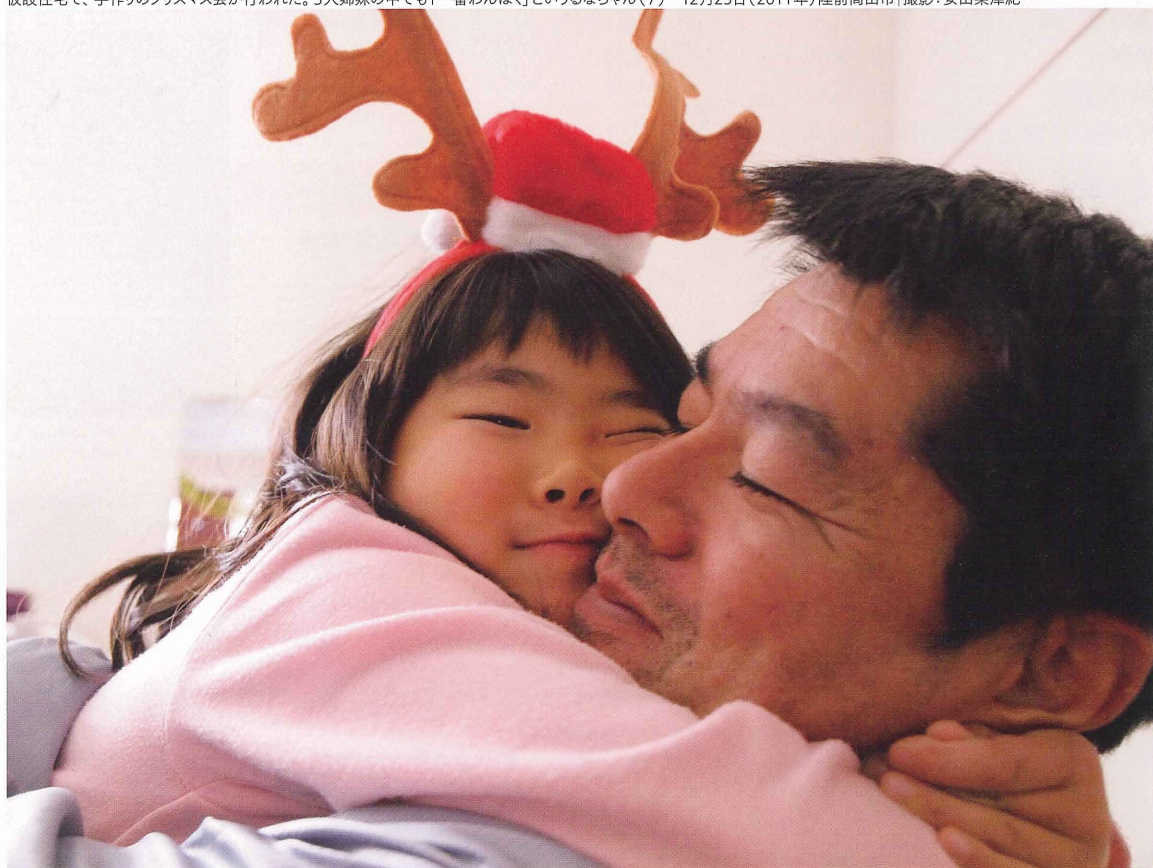
## 生きる。生きよう。生きている。

そんな声こそが、この写真展と、写真集の一番の望みのように思える。

### 伊集院 静



「知人の家が、車が、津波に呑み込まれてゆく瞬間一撮った写真を発表していいの、大きな抵抗を覚えた」 3月11日(2011年)陸前高田市 | 撮影:西條嘉吉  
仮設住宅で、手作りのクリスマス会が行われた。3人姉妹の中でも「一番わんぱく」というなちゃん(7) 12月25日(2011年)陸前高田市 | 撮影:安田菜津紀



主催 | 公益社団法人日本写真家協会  
<http://www.jpis.gr.jp/311/>

## 富士ラオトギャラリー新宿

2012年 3月2日 [金] - 3月15日 [木]

午前10時 ~ 午後六時 (木曜日・金曜日は午後八時まで 最終日は午後二時まで)

会期中無休

私ども日本写真家協会は震災が起きた1ヶ月半後に、会員作品のチャリティ写真展を開き、収益を義援金として被災地の子どもたちのために贈った。

今回は震災1年後に、東日本の被害、再建にとりくむ被災者、この未曾有の出来事を一冊に編集し、現代の人々そして後世の人たちのために記録書として写真集『生きる』を編纂することにした。

東日本の被災地には119名の協会員がいる。その中の有志が、自身も被災しながら日夜懸命に撮り続けたドキュメント写真を軸に、各地から取材に入った会員、一般写真家、メディアが取材した中から企画に沿う写真を提供していただいた。また、被災現場に住み、災害に遭遇した写真愛好家の撮った写真も見逃せない。その埋もれた中から災禍を象徴する写真を選び掲載した。その内容は、第一章「被災」第二章「ふるさと」第三章「生きる」という三部構成にし、よき時代の生活ぶり、伝統文化、美しい風土を記録した写真も組み込んでいる。それは日本写真家協会できなければ出来ない、写真展『生きる』になっている。なお、写真集については、被災地の公立図書館約400ヶ所に寄贈する。

公益社団法人日本写真家協会 会長 田沼武能

### 出展者

- |                                   |  |   |   |
|-----------------------------------|--|---|---|
| 有田勉<br>ANDRONIKI<br>CHRISTODOULOU | 鎌澤久也<br>川村品彦<br>管野千代子<br>菊地信平<br>木戸孝子<br>葛谷吾吾(朝日新聞)<br>國森弘弘<br>熊谷岩奇<br>熊谷正<br>熊切圭介<br>桑原史成<br>郡山貴三<br>小林紀晴<br>小宮山道隆<br>西條嘉吉<br>佐々木貴範<br>佐藤信一<br>宍戸清孝<br>志田信一 | 島田聡<br>清水哲朗<br>管洋志<br>鈴木多聞(岩手日報)<br>鈴木康一<br>関口寛人(読売新聞)<br>瀬崎直俊<br>高橋智史<br>立石紀和(読売新聞)<br>田沼武能<br>豊田直巳<br>中居裕恭<br>中嶋忠一<br>野田雅也<br>野町和嘉<br>ハービー・山口<br>芳賀日出男<br>橋本紘二<br>英伸三 | 平野純一<br>(復興支援メディア隊・<br>釜石市立唐丹中学校)<br>広河隆一<br>藤枝宏<br>松橋隆樹<br>松原豊<br>宮古漁業協同組合<br>宮嶋茂樹<br>宗形繁雄<br>桃井和馬<br>森住卓<br>安田菜津紀<br>山口規子<br>山本皓一<br>山本宗補<br>吉田範雄<br>鷺巣真大(読売新聞)<br>和田直樹<br>以上73名 五十音順 |
|-----------------------------------|--|---|---|

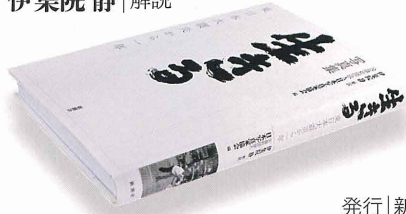
■会場にて作家サイン会・ギャラリートーク(作家在廊の場合随時) ◆写真集常時販売

### 写真集 『生きる』 東日本大震災から一年



津波で父と祖父を失った少年は、コンクリートの壁に向かって野球のボールを一生懸命投げていた。6月5日(2011年) 宮古市 撮影:高橋智史

公益社団法人日本写真家協会 | 編集  
伊集院 静 | 解説



発行 | 新潮社  
2012年(平成24年)2月末刊行  
判型 | B5版上製 カラー/モノクロ192頁  
定価 | 2800円(税別)

#### 「生きる」仙台展

会期:3月27日(火)~4月8日(日) 月曜休館 9:00-16:45(入館は16:15まで) 初日のみ12:00より 入場無料  
会場:仙台市博物館ギャラリー(〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡))  
TEL: 022-225-3074 FAX: 022-225-2558 <http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum/>

#### 公益社団法人日本写真家協会(JPS)

〒102-0082 東京都千代田区一番町25番地JCIIビル303  
TEL 03-3265-7451 FAX 03-3265-7460 <http://www.jps.gr.jp/>



特別協賛:株式会社タムロン **TAMRON** 協賛:富士フイルムイメージングシステムズ株式会社



漁を終え魚を積んで港に戻る途中、小魚のおこぼれをいただきに群がるウミネコ。昭和62年(1987)5月 陸前高田市 撮影:志田信一



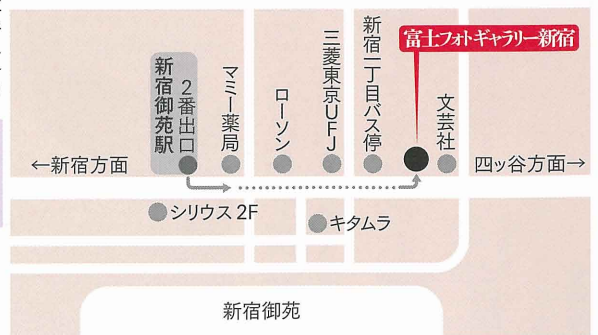
陸に取り残された鳥海丸(452トン)。大型漁船が、あたかも安住の地を求めて陸に居座っているかのようだ。4月5日(2011年) 東松島市 撮影:桑原史成



震災発生夜の夜、ダンブの荷台に乗り、旧釜石第一中学校に避難してきた子供たち。3月11日(2011年) 釜石市 撮影:菊地信平



被災から1ヶ月が過ぎた頃、避難所には物資の配給があったので、少しずつ元気を取り戻しつつあった。4月24日(2011年) 宮古市 撮影:有田勉



〒160-0022 東京都新宿区新宿1-10-3 太田紙興新宿ビル1F  
TEL 03-5368-2530 FAX 03-5368-2570